

3 アマ e ラーニング受講体験記

K さん (50 代男性 東京都在住)

1. 受講のきっかけ

私は実は今年の8月までアマチュア無線だけではなく、1つも無線従事者の免許を保有していませんでした。人生で初めて無線従事者免許の取得を考えたのは、8月に1級小型船舶免許を取得したことがきっかけでした。船舶免許を取得した教習所で、教習を担当した講師から、いざという時に海上などで使えるように無線免許を持っていた方が良い、というアドバイスを受けました。

それで無線の免許の存在を初めて意識し、色々と調べた結果、海上特殊無線のeラーニングによる養成課程サービスを見つけ、無線について何も分からないまま、まず9月に2海特の課程を受講し、その免許を取得しました。この勉強を通じて無線の世界の考え方や知識にすっかり取りつかれました。そこで、「もっと広い範囲で無線の勉強をしたい!」と思い、同じサービスの団体で直ぐに1陸特の養成課程の受講のため選抜試験の受講を行いました。他方、タイムラグを利用して1海特の課程を受けて短縮で2陸特も受け、更に10月には1陸特もeラーニングで受講し、これらの免許は無事に取得しました。

しかしこれらは業務に関してのものなので、もっと自分自身プライベートでじっくり無線を練習、コミュニケーションなどもできるようになりたい、と思い、無線の勉強のボルテージも上がってきたところでアマチュア無線の免許取得も考えるようになりました。そこでインターネットなどで色々と調べて、JARDのeラーニングの養成課程を見つけ、これが一番だと分かりました。そう判断したのはいくつかの理由があります。

まずこれまでの他の免許の取得状況からも、自分にはそもそもeラーニングという学習の形が向いていると思えました。また国家試験は実施回数が少なく、一度不合格となると次回受験までが間が空いてしまうこともモチベーションを維持するのが難しいのではと思えました。この点eラーニングはいつでも申し込めてしかも手続きを完了すれば直ぐに学習を始められるので、モチベーションを維持しやすいと言えます。そして費

用も一般の養成に比べて安く、また私にとって一番決定的だったのは、「3アマの免許が直接取得できる」ということでした。調べてみると4アマと3アマでは難易度や勉強の準備が大きくは差がない、ということで、どうせやるならば3アマを取得したいと思いました。しかし通常は4アマを取得した上でないと3アマの短縮の課程が受講できず、また3アマを最初から取得するための課程の講座は余り開かれていないようでした。私は当時4アマの免許を持っていませんでしたから、費用や時間の節約という意味からも、できれば3アマを直接取得できれば、と思っていました。そしてJARDの3アマのeラーニングの課程ではこれが可能だと分かりました。こうして直ぐにJARDの3アマのeラーニングを申し込みました。

2. 受講までの手続きについて

eラーニングに限らず、一般にインターネットを通じての取引などを行う場合は、連絡や料金の支払い、品物などがきちんと届くか、など不安な要素が一杯あります。しかし、JARDの3アマのeラーニングではそうした心配は全く不要でした。申込みや料金支払いなどの説明や問い合わせは電話でも可能で、事前の不安を全て解消してくれました。申込み後直ぐにメールでの確認も取れ、受講料の支払いの期限も時間的に配慮のあるものでした。お陰でスムーズに手続きも完了し、その後直ぐに受講開始となり、資料や教材類も受講開始の直後翌日には自宅に無事届いていました。一連の手続きの流れと対応が非常にスムーズで迅速であることに驚きました。手続きの対応の管理や実施がともしっかりしている、と感じました。

3. 講座についての感想

私の3アマの受講は10月初めにスタートしました。私は仕事の関係でこの時期は実はかなり忙しくなるタイミングでした。正直eラーニングでなければこの時期の3アマ取得はあきらめなくてはならないほど忙しくなっていました。しかし分りやすくまとまっているeラーニングの講座と教材のお陰で、時間を有効に活用することもでき、学習を速いテンポで進めることができました。

講座の内容は正直難しい面もありましたが、分りにくい部分は教科書や映像補助教材がかなり役に立ちました。また質問もするようにしました。そうした甲斐があっただけ、1週間弱で中間試験が全て終了できました。何しろ毎回満点を取れないと24時間再受験ができないので、かなり慎重に準備をして毎回受けることとなりました。できればこの再受験の制限の時間はもう少し短めの設定にして頂ければより学習が取り組みやすくなるのではというようには思えます。

そして中間試験を全て完了したその日に直ぐに判定試験の受験承認を頂きました。しかし判定試験は中間試験とは違い範囲も講座の内容全部に及びますし、受験の回数制限もあるので、慎重に考え、演習問題や中間試験を中心に、何度も内容を復習しました。そうして受験承認から5日後にようやく勇気を出して受験した結果、幸い判定試験に無事満点合格することができました。やはり主として演習問題や中間試験の復習を中心に学習することが効果的だと思えました。

4. 修了試験について

判定試験合格の翌日に最後の難関の修了試験の受験承認の通知が来ました。修了試験は受講生が自分で都合の良い日時とCBTセンターの受験会場を選び、受験希望日の3日前までに自分でCBTセンターに申込みを行う必要があります。

受験のタイミングは仕事のこともあり少し悩みましたが、判定試験の時とは全く逆に近在の会場で最短で受験可能な日時を選びました。これはどうしてそうしたのかというと、判定試験が限りなく修了試験に近い模擬試験である、と考えたからです。つまり、判定試験の場合はその受験の承認があってから実際に判定試験を受けるためには、それまでの法規や無線工学のそれぞれの細かい单元ごとに学んできた内容について、よく分っていない箇所や難解な箇所などについても含めて一度学習内容をきちんと通して振り返り、復習するなどして自分の中で、「体系的理解」や、「全体の総まとめ」を行っていないと現実的には受験の準備が調わないと思えます。これに対して、判定試験に合格して、「講座の全体の内容を通して理解している」と認められて初めて受験が承認される修了試験の場合は、既に基本的には合格できる基礎や素養が充分調っている状態だと

言えるかと思います。そのため判定試験受験のために培った知識や理解あるいはそのポルテージを活用して、これらが減退する前にその勢いの延長でできるだけ速く修了試験をサッサと受けてしまった方が、より良い結果を期待できるのではないかと考えたのです。勿論、判定試験の問題がそのまま修了試験に出るわけではないですし、受験準備は別途それなりに必要ですが、基本的に講座内容の再確認という意味ではほぼ同様の努力と準備となるかと思います。これを更に繰り返して理解や知識の強化を図る、といった感じの準備が必要となるかと思います。

以上のような判断に基づいて、私は受験の承認の通知を頂いてからほぼ最短日程といえる、4日後の日時で修了試験を予約しました。予約後は仕事の合間などを縫って、上記の理解や知識の強化を図る再確認の勉強を全体の内容を通して行いました。その過程で映像補助教材は画像と音声のダブルのアプローチでもあり、かなり印象に残り有効な学習手段だと思えました。

さて、こうしていよいよ迎えた修了試験本番ですが、実は以前にも他のテストの関係で何度か利用したことのある会場を選んでいたので、比較的リラックスして受験できました。初めての会場やテスト形式ですとその空気に飲まれたり、場所で迷って時間に余裕がなくなる、あるいは気持ちが焦って平常心をなくすようなリスクもあるかもしれません。ですので、全く初めての会場とシステムで受験される方は、もし可能であれば事前に場所の確認などをして、当日は時間に余裕を持って試験に向かわれると良いかと思います。

試験会場は落ち着いた雰囲気でしたが、荷物を事前に全て試験室の外にある準備の部屋でロッカーに預けなければならず、自前の文房具などは一切持ち込めず、ポケットの中身も全て出しておかなければなりません。その代わりに、筆記具とメモ用紙は会場が用意してくれてこれらを試験室に持ち込んで利用できます。途中で筆記具が使いなくなって紙が不足したような場合は、試験室内からのボタンの連絡で事務スタッフを呼んで追加を頼むこともできます。もっとも実際には私はメモをあまり使いませんでした。また受験の際には必ず運転免許証や住基カードなど、予め指定された何種類かの身分証のどれか1つを持参して提示する必要があります。実は3アマの講座では、他の無線従事者

の免許証も指定された身分証の一種として認められているので、私の場合は今回の受験日の僅か1ヶ月程前に届いたばかりの2海特の免許証を使いました。試験室内に持ち込めるのは、この身分証と貸与される文房具、そしてロッカーの鍵だけなのである意味身軽ですが、待ったなしの感じもあります。

ちなみに私が利用した会場ではセンターの入口のドアの外にトイレも有り、またソファがあって、受験の手続き前であればここでトイレの利用も、最後の予習もできるので少しゆとりを持てます。私も今回早めに会場に到着し、入口外のソファで時間まで勉強しました。

受験手続き完了後はそのまま試験室内に入らなければならない、またその試験室では試験終了まで退出できません。また試験終了の処理をしないで途中で試験を止めた場合にはその受験回は不合格の扱いとなってしまうので、注意が必要です。それでも、修了試験そのものは、操作面に関しては、コンピューターの基本操作ができれば問題ありませんし、eラーニングで学習している人にとっては問題ないと思います。内容面に関しては、やはり全体の復習でポイントを学んでおくことが肝要かと思えます。そして法規と無線工学を合わせて60分の試験時間があり、それぞれ10問ずつ出題されますが、早めに終わった場合は終了処理をすればそこで退出できます。私の場合は、20分程で終了処理をして退出しました。終了処理に際しては、最後に試験終了の画面を印刷処理する必要があります。この試験終了画面の印刷した内容は、後ほど受付で試験終了を確認する際にプリントアウトして、確認のために渡されます。

受験が終わったの感想としては、やはり全体の再確認が大切だという印象で、試験のときには確かな手応えを感じました。

5. 修了試験後から免許証交付まで

修了試験から1週間弱でメールにて試験結果の通知がありました。幸い合格していました。実はこの通知を受けた日は他ならぬ私の誕生日で、最高の誕生日プレゼントとなりました。その2日後には郵送で修了試験結果通知書も来ましたが、その発行日はやはり私の誕生日だったので素晴らしい記念になりました。

そしてこの通知では免許証の発行手続きに入ったということも説明されており、その約 2 週間後に総合通信局から私の手許に無事 3 アマの免許証が届きました。

今回講座の受講スタートから約 1 週間で学習が一通り終わり、全体の復習に 1 週間弱、修了試験まで 4 日間ということで、修了試験合格修了まで半月程かかりました。そして免許証の取得までトータル 5 週間弱で、多忙な中での対応としては私の感覚とペースでは比較的スムーズな流れだったと思えます。これも e ラーニングという手法ならではのものと実感しています。

6. 今後の抱負、希望

初めに書きましたように、今年 8 月までは全く無線関係の免許を持っていなかった私が、2 海特、2 陸特、1 海特、1 陸特、そして今回 3 アマと、僅か 3 ヶ月程の間に 5 つも免許を持つに至ったことは私の人生の中でもインパクトのあることで、夏に取得した 1 級船舶や特殊船舶、特定免許などともに、今年は、「一杯勉強して船や無線の免許をいくつも集中的に取得した年」として生涯忘れることができない思い出の年となりました。

今後は、せっかく身に付けた知識や理解ですのでこれを更に磨いて活用し、開局を目指し、船舶などの関係でも実際に海に出て行って、大いに活用してゆきたいと思っています。また早速交流サイトの HAMtte にも入り、交流や勉強を続けてゆきたいと思えます。そしてこのボルテージを使って、更に上の無線関係の免許の取得も目指したいと思っています。差し当たってできれば早い時期に 2 アマの取得を目指したいと考えています。JARd では 2 アマの e ラーニングによる養成課程もあるようなので、勿論目指すならば是非また JARd の e ラーニングで、と考えております。

以 上